



ハクサイ栽培の生育期における主な病害虫防除

ハクサイの生育中には、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、コナガ、タマナギンウワバなどチョウ目害虫やカブラハバチなどが葉を食害したり、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などを発生します。これらの対策として、生育の初中期を対象に、ベリマークSCやジュリボフロアブルなどを育苗期後半に灌注処理や、ジェイエース（オルトラン）粒剤などを定植時に処理することで、薬剤によって異なりますが処理後2週間~1か月くらいの防除効果が期待できます。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかず防除が手遅れになってしまうと、幼虫の食害などにより著しい商品価値の低下や減収を招いてしまうため、十分な注意が必要です。

また、秋には長雨や強風雨を伴う前線または台風の接近などが今後とも予想されますので、各種病害の発生にも十分な注意が必要で、べと病や白斑病、軟腐病、黒斑細菌病、黒斑病などの予防および早期発見と早期防除が重要になります。

なお、向こう1カ月の気象予報（9月15日発表）では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて曇りや雨の日が多く、また、気温は高い確率60%と予想されており、病害や害虫ともに適した発生条件と考えられるため、十分注意してください。

このため、下記を参考に、病害虫の予防や発生の早期に薬剤防除を徹底して、被害の抑制に努めてください。

表1 ハクサイ本圃（生育期）における主要害虫の主な防除薬剤（令和4年9月21日現在）

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	コナガ	タマナギンウワバ	カブラハバチ	アブラムシ類	分類
ディアナSC	○	○	○	○	○(ウバ類)			5
アニキ乳剤	○		○	○		○		6
プレオフロアブル	○	○		○				un
グレーシア乳剤	○	○	○	○				30
トルネードエースDF	○	○		○		○		22A
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○					28
アクセルフロアブル	○	○	○	○		○		22B
コテツフロアブル	○	○		○		○		13
アタブロン乳剤	○	○	○	○	○			15
サイアノックス乳剤	○	○(若~中齢幼虫)		○	○		○	1B
スカウト乳剤	○	○		○	○		○	3A
ハチハチフロアブル	○			○			○	21A
モスピラン顆粒水溶剤	○			○		○	○	4A
ウララDF							○	29

注1) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注2) コナガは殺虫剤抵抗性が発現しやすく、現在、IRAC分類コード：28（ジアミド系剤のフェニックス顆粒水和剤など）では殺虫効果の低下した事例が見られます。この場合は、他分類（コード）の薬剤を使用して防除してください。

表2 ハクサイ本圃（生育期）における主要病害の主な防除薬剤（令和4年9月21日現在）

薬剤名	べと病	白斑病	軟腐病	黒斑細菌病	黒斑病	菌核病	分類
ダコニール1000	○	○			○		M5
ペンコゼブ（ジマンダイセン）水和剤	○	○			○		M3
オーソサイド水和剤80	○	○			○		M4
ストロビーフロアブル	○	○			○		11
プロポーズ顆粒水和剤	○	○			○		40とM5
シグナムWDG	○	○			○	○	7と11
ホライズンドライフロアブル	○						11と27
パレード20フロアブル		○			○	○	7
ロブラール水和剤		○			○	○	2
トップジンM水和剤		○				○	1
バリダシン液剤5			○	○			U18
カセット水和剤			○	○			24と31
スターナ水和剤			○	○			31
アグリマイシン-100			○	○			25と41
Zボルドー	○		○	○			M1

注1) 分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。